

# 北 どころ

第52号 2020年7月1日（毎月1日発行）

ふるさとの巡礼地を訪ねて（番外編）

## 旧三谿郡三十三か所霊場

番外編第三弾は旧三谿郡。現三次市の吉舎町、三良坂町、向江田町、和知町、高杉町、江田川之内町、廻神町、大田幸町、小田幸町、志幸町、三若町、有村町、上田町、石原町、海渡町、糸井町の地域である。ちなみに、明治三十一年に三次郡と三谿郡が合併して双三郡が発足した。

旧三谿郡三十三か所霊場のことが、「吉舎町史・下巻」に書かれている。

『備後後州三谿郡三十三所順礼歌』と題する木版刷りの奥書には「正徳五（一七一五）未天晩春一八日、施主三良坂町住 本誉浄清」とあり、すでに一八世紀初頭には三谿郡三十三か所がひらかれていたことが知れる。」

その解説文の最後に「三十三か所のうち、寺として現存するのは僅か七カ所にすぎない」と書かれている。「吉舎町史・下巻」が出版されたのが平成三年、それから三十年近くの歳月が経過している。その七カ寺は現在も健在な



第1番札所・広沢山大慈寺（吉舎町吉舎）は備後西国三十三か所霊場の第14番札所でもある。



本尊の観世音菩薩を祀る円通閣には備後西国霊場の御詠歌が掲げられている。

のか？ 吉舎町史には、七カ寺の名前は記されていない。三谿郡三十三か所霊場のリストから、インターネットで寺院名を検索、該当する寺院に電話をかけて確認することに。その電話取材中に、「げいびグラフ」（季刊、青文社発行、現在は休刊中）で三谿郡三十三か所霊場の連載企画が

あったことを知った。青文社に問い合わせ、バックナンバーを入手することができた。タイトルは「備後国三谿郡三十三番札所を訪ねて」、平成二十年の夏号第107号より、平成二十四年の春号第120号まで、十四回に渡って連載されている。その記事によると、現在も寺院が健在なのは、第一番・大慈寺、第二番・善逝寺、第七番・黄梅院、第十二番・福善寺、第二十八番・大楽寺、第三十三番・岩崎庵（忠魂寺）の六寺。その他に、お堂とし

て守られているのが十八番・志幸観音堂、第二十一番・福智院、第二十二番・海渡観音堂、第二十三番・滝観音堂、第二十四番・頂門寺薬師堂、二十五番・一休庵、二十六番・永林堂の七つ。寺院やお堂は消失してしまったが、所在地が特定されていて、縁りの石仏や石碑、墓石などが残っている札所が第二十七番・清滝堂と三十二番・藤坂庵。清滝堂跡には本尊であったと推測される舟形の石仏が、藤坂庵跡には藤坂庵を建立したと言われる伊藤

勘十郎の墓石等が残っている。場所は特定されているが、現在では訪問することができない札所がひとつある。第十一番札所、三良坂町灰塚にあったとされる放光院。宝曆（1751〜1763）の頃、鳳源寺（四世愚極がこの庵に止宿した時、前山に白鷺が飛来したので積翠山白鷺寺と呼ばれるようになったという。灰塚ではこの白鷺寺をめぐる伝説が語り継がれている。寺の若僧「戒満」と村の美しい娘「たき」の悲しい恋の物語。今はその伝説の舞台も、ダム湖の湖底で眠っている。御詠歌の額面はありませんかと電



第二十二番・海渡観音堂には三十三の札所と御詠歌を墨書した一枚板が掲示されている。

話取材で尋ねたが、存在を確認することはできなかった。げいびグラフの記事を読んでも、御詠歌の額面のことは何も書かれていない。ひとつだけ、気になる写真があった。石原町にある第二十五番札所・一休庵。御詠歌が墨蹟で書かれた一枚板が堂内に掲げられている。現地を訪れ、お堂の管理をされている近在の松井康倫さんに話をうかがうと、自分で書かれたとのことだった。なかなかの達筆である。

雨風もそれとばかりいとねばかりのこの世はひと休みなれ

一休庵（左写真）は、通称天神山の山裾に建っている。昔から「雨の神様」と呼ばれて大切にされてきた。



巡礼の人々も、眼下に田園風景が一望できるこのお堂で、旅の疲れを癒したのであろう。背後の山の斜面からは、宝篋印塔（ほうきょういんとう）の最上部の相輪と思われるものがいくつか出てきている。身分の高い方の墓石があったと思われるが、記録や伝承は残っていない。あるいは、落人伝説が埋もれているのかもしれない。

以下、旧三谿郡三十三か所霊場の札所の名前と所在地だけ列挙しておく。番外編も手元にある資料が尽きたので今回で終了。地元の札所巡りについて、何か情報や資料を持っている方はご連絡ください。続編を書ける機会があることを願っています。



- 1番.. 大慈寺 (吉舎町吉舎)
- 2番.. 善逝寺 (吉舎町吉舎)
- 3番.. 吉祥院 (吉舎町清綱)
- 4番.. 吉寺 (吉舎町松村)
- 5番.. 西明寺 (吉舎町川ノ内)
- 6番.. 安海寺 (吉舎町辻)
- 7番.. 黄梅院 (吉舎町雲通)
- 8番.. 玉泉庵 (吉舎町三玉)
- 9番.. 円通寺 (吉舎町安田)
- 10番.. 曾堂 (三良坂町棗原)
- 11番.. 放光院 (三良坂町灰塚)
- 12番.. 福善寺 (三良坂町仁賀)
- 13番.. 福応寺 (三良坂町棗原)
- 14番.. 安楽寺 (三良坂町光清)
- 15番.. 岩屋堂 (三良坂町田利)
- 16番.. 慶藤庵 (和知町)
- 17番.. 滝見堂 (向江田町)
- 18番.. 観音堂 (志幸町)
- 19番.. 神宮寺 (高杉町)
- 20番.. 問名堂 (廻神町)
- 21番.. 福智院 (田幸町)
- 22番.. 観音堂 (海渡町)
- 23番.. 祇園寺 (滝観音堂) (三若町)
- 24番.. 頂門寺 (有原町)
- 25番.. 一休庵 (石原町)
- 26番.. 永林堂 (三良坂町長田)
- 27番.. 清滝堂 (吉舎町敷地)
- 28番.. 大楽寺 (吉舎町敷地)
- 29番.. 高松寺 (吉舎町矢井)
- 30番.. 善常寺 (吉舎町海田原)
- 31番.. 正興寺 (吉舎町矢野地)
- 32番.. 藤坂庵 (三良坂町藤坂)
- 33番.. 岩崎庵 (忠魂寺) (三良坂町三良坂)

# 開高健『パニック』

## ——出来事が世間を動かした

郷里の作家倉田百三がらみで寄り道をしました。『青い山脈』（昨年9月号から）でスタートした名作でたどる戦後世相史に戻ります。

『太陽の季節』の出現で、一気に時代が進んだかに見えましたが、その後『荷車の歌』が映画化され広く受け容れられるなど農村の貧しさは続いていました。が、翌年の1957（昭和32）年に出た開高健『パニック』（新潮文庫など）は、新しい時代を予感させるものでした。

この頃、設備投資ブームで神武景気といわれたかと思うとなべ底不況となり、瞬く間に岩戸景気となるなど、経済は激しく変動しながら60年代の高度成長へとなだれ込みます。この作品は、農村社会から産業社会への大きな社会転換を思わせ、作者の「組織と個人」への感度が目を引きます。

県庁山林課に勤める俊介は、村々を周り、秋の野ネズミの大量発生を憂慮していました。というのは、百年に一度というササの開花があり、この実をめぐって野ネズミが大量発

生したのです。緊急を要すると思っ  
た俊介は、課長に相談せず、部長を  
通り越して直接に局長に野ネズミ対

かじられる被害が寄せられます。被害は甚大になり、課長、部長たちは責任のなすりあいをします。進歩政  
党が県を攻撃し、対策を進言した俊  
介はヒーローに祭り上げられます。  
俊介を抱き込んで事態收拾の宣言を

長に、ここに「怪物が寝ている」と  
立て札を立ててはと、提案してみ  
るのでした。野ネズミ群は死んだの  
はなくて、潜伏期間に入っただけ  
のだという思いがあるからです。

以上、粗筋を紹介しましたが、こ  
の作品には、たくさんの暗示が詰め  
込まれています。

最初に、社会の転換期への注目を  
指摘しましたが、野ネズミによって  
引き起こされる「パニック」は、い  
ま進行形のコロナ禍の社会相と似て  
もいます。作者は終焉に際して言  
います。「政治と心理のパニックも  
たひとつの意識の底深く潜ってし  
まうのではないだろうか」と。

触れるゆとりがなかったのです  
が、心理面では俊介は、覚めている  
ように見えて、打算もします。「最  
小のエネルギーで最大の効果」とい  
う振る舞いの哲学を持っていて、自  
分の行動が組織内でどう位置づけら  
れているか、測ります。ちゃっかり  
と、現代つ子気質の先取りです。「組  
織」への確たる認識でもあります。

あたらしい時代への胎動として、  
この作品には様々な試みが複雑に絡  
み合っているように思えます。  
今回は、大江健三郎『飼育』を取  
りあげます。

### また読んでみたい本⑤〇 青年たちに 音谷 健郎



【新潮文庫版の表紙】

古今東西の文学には  
たくさんの名作があ  
ります。そんな名作  
の中から筆者の心に  
残る作品を今の青年  
たちにも読んでもら  
いたいと思い、毎月  
1冊ずつ紹介してい  
ます。

第50回は、開高健の『パニック』です。  
もし興味を持ったらぜひ読んでみてくだ  
さい。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞  
記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在  
住。大阪文学学校講師

策の陳情書を出します。笹原を焼く  
という企画です。が、無視されて立  
腹した課長を通じて返されます。俊  
介は、課員たちからも孤立します。  
この後、俊介は課長の小手先の対  
策に同調する姿勢を取りながら、雪  
溶け期を迎えます。各地から樹木を

出そうとし、俊介が対応に苦慮して  
いるうちに、野ネズミの大群の疾走  
を知ります。駆けつけると野ネズミ  
の群れは夜の湖の中に走り込みます。  
その後、俊介は寒さに震えながらこ  
の光景に見とれるのでした。  
一緒にいた唯一の理解者の研究課

# 「草花の博物誌」

## イワタバコ 切り立った岸壁に咲く可憐な花

溪谷の湿った岩壁に美しい花をつけるイワタバコは小暑（七月八日頃）から立秋（八月八日）の前日までの季節「晩夏」の季語です。

この句はイワタバコの自生しているところをみごとに表現し、溪谷の緑と共に涼しさが伝わってくる名句だと思います。

滴（したた）りに濡（ぬ）れにぞ濡れて岩たばこ

灌春一

イワタバコという和名は葉の形がタバコの葉に似ているところから名



づけられました。葉がチシャ（レタス）の瑞々しい姿を連想させるところから岩高苳（いわぢしや）、滝高苳、岩菜（いわな）とも呼ばれています。

はりつける岩高苳採（とり）の命綱

杉田久女

イワタバコは切り

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

立った岩壁、しかも、水しぶきで湿った岩壁に生えているので、命綱を張って岩壁を下り、イワタバコの葉を摘み、それをむかしは胃腸薬に利用したり、食用に利用したりしていたよう。この句は切り立った岩壁に群生しているイワタバコの葉を摘んでいる情景をみごとに表現している名句だと思います。杉田久女さんがどこで、いつ、イワタバコの葉を摘んでいる情景をみて、この名句を詠んだかは、私にはわかりませんが、残念ながら広島県にはこの名句にある

ようなイワタバコの群生している岩壁はきわめて少なく、イワタバコがわずかに自生している峡谷の岩壁でもどうしたことが、イワタバコは衰退の一途をたどっています。今、地球温暖化防止など、環境問題が地球規模で論議されている中で、イワタバコなど身近にあって衰退している生きものに、私たちはもっと心を寄せ、それらの生きものたちのことばに耳を傾けながら、環境問題を考えなければならぬときを迎えていると思うことしきりです。

## イブキジャコウソウ

### 県北の高い山だけに自生

イブキジャコウソウが初めて植物図鑑で紹介されたのは、岩崎灌園（かんえん、一七八六〜一八四二）が著した本草図譜のようです。灌園は本草図譜巻十二のところに「薄荷の一種 石薄荷 伊吹じゃかうさう オ

ランダ名はウイルテ テーム（後略）」と、絵と共に解説を載せています。ハッカもイブキジャコウソウも今ではシソ科に分類されていますが、まだ、似た植物を科にまとめる考えのなかった当時、灌園は「薄荷の一種」

と、つまり、イブキジャコウソウはハッカと同じなまだと考えていたのはさすがだと思います。

リンネの植物分類法に従って日本最初の植物図鑑を完成させたのは飯沼慾齋（一七八三〜一八六五）で、それは「草木図説」です。その「草木図説」の草部卷十一に「イブキジャコウソウ ヒヤクリカウ 伊吹山其他原野處々（ところどころ）ニ多シ（後略）」と解説し、第四十一図版にイブキジャコウソウの全形図と花の拡大図を載せています。ここでイブキジャコウソウをヒヤリカウと慾齋は記していますが、このヒヤリカウというのは百里香（ひゃくりこう）のこと。これはジャコウソウの中国

名です。百里香は風邪薬として漢方では利用されているようです。

イブキジャコウソウは滋賀県伊吹山に多くジャコウシカから採れる薬剤「麝香（じゃこう）」に似た芳香がするところから、江戸時代、本草学者の間で誰いうことなくその名が生れたようです。最も伊吹山は菓草の多い山として本草学者の間で広く知られていたもので、灌園も慾齋も医者であり、本草学者でしたから、伊吹山に登り、イブキジャコウソウを調べていたでしょうし、採集して帰り、図鑑のための図を描いたことと思われまます。

イブキジャコウソウは広島県では県北のある高い山に限って自生して

います。非常に数が少なく絶滅寸前なので、絶滅危惧種I類に指定し、保護を強く訴えています。いつまでもジャコウソウが生き続けてくれるよう、その保護に力を貸そうではありませんか。

（写真はいずれも小川光昭氏撮影）



## 「つれづれ歌談」①

松岡 初枝

歌のおはなしというと、かなり漠然としています。歌は和歌の中の一つの形式で、和歌には長歌もあれば短歌もあります。この歌談は、主に短歌、五七五七七の三十一文字の歌を話の中心に置いて進めてみたいと思います。

皆が知っている万葉集は、約百三十年間に渡る壮大な歌集で、天皇から民草までの作が残されていますが、大伴家持が編者のひとりと言われ、四百七十首もの歌を残しました。

令和という御代に入り、出典が万葉集ということもあって、去年は多くの人が関心を持ったよう

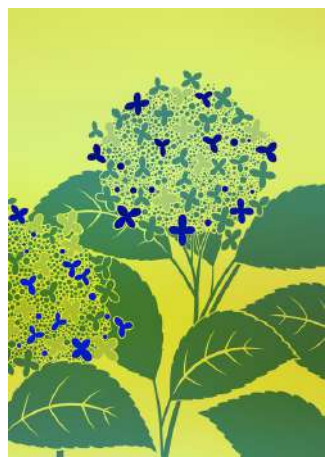
ですが、読んでみると、本当に歴史そのものであり、政治、戦（いくさ）、死、恋、生活、人の営みが生き生きと残されているのです。『海ゆかば』も万葉集の歌ですし、すぐに口ずさむことが出来るのも、五七五七七…という律文が、覚えやすさの一因なのでしょう。

・新しき年の始めの初春の今日ふる雪のいや重（し）げ吉事（よごと）  
（万葉集の完末 大伴家持）

・唐衣裾（からごろもすそ）に取  
りつき泣く子らを置きてぞ来のや  
母（おも）なしにして（信濃国  
の防人）

二首は、この御代の弥栄（いやさか）を願う歌と、大宰府へ赴く道すがらの兵士の歌ですが、立場の異なる人の歌が同時に読める、これが万葉集の凄さだと思っております。

歌は今も生き生きと詠まれ、あ  
るは日記のように、あるは風刺を  
込め、人の心の表現に一役買って  
います。難しく思わずに、気楽に  
読み、詠むことをお勧めしたいと  
思います。



雨が降り続けている。机の上に置かれた本の中から、一冊の本を取り上げた。野口雨情の童謡集「十五夜お月さん」、大正十年に尚文堂が発行した初版本だ。まだ子供たちが月にはうさぎが住んでいると信じていた時代なのか、函にはうさぎのシルエットがデザインされている。「湿気が多い場所に置いてたんで、シミが出とりますでしょ」

喜美子さんが心配そうに声をかけてきた。

「古い本なので、これくらいは仕方がないですよ」

函から本を取り出した。表紙に黄色い大きな満月が描かれている。裏返すと、立派な大きな蝶の翅を生やした裸の子供の絵。

童画家の岡本帰一が描いたこの絵を見るたびに不思議に思う。翅を生やした天使のような子供は、なぜか顔を覆って泣いているのだ。この絵に該当する作品は見当たらない。それに、裏表紙の装丁の絵の方が鮮やかで、よほど表紙らしいではないか。「猫の髯のページにね、あたしがいたずら描きをしてしまったんですよ」

喜美子さんに言われてページをめくる。「猫の髯」と題された詩を見

つけた。

隣の父（とつ）さん

小豆 一升

煮てた

牡丹餅（ぼたもち） 甘（うま）

いな

てっこ盛つて

食べた

## 稀覯本

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子④⑥

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

優だったはずなのに、この絵を見てがっかりしましたわ。タマはもつとかわいかったのに」

その話が本当だとすると、絵画の才能は遺伝しなかったようだ。

「本の価値が下がるようなら消しましようか？」

「いえ、無理に消す必要はありません」  
あわてて否定した。

「最近では、こうした書き込みを珍重す

十五夜お月さん

御機嫌さん

婆やお暇（いとま）とりました

十五夜お月さん

妹は

田舎へ 貰（も）られて ゆきま

した

十五夜お月さん 母さんに

も一度

わたしは逢いたいな。

四つ折りにされた紙を開いた。昔はわら半紙と呼んでいた粗末な紙だった。ひらかなだけのたどたどしい文字で、本の感想と本を貸してもらったお礼が書かれている。不思議そうな顔をしている喜美子さんに、紙を手渡した。それを読む喜美子さんの頬が少女のように赤く染まる。

「まあ、八郎さんの手紙。こんなところに挟んであったんですね」  
その名前を聞いたときに、貧乏人の子沢山（だくさん）という言葉を連想する。

「それでは、計算させていただきます」

持参した算盤（そろばん）を取り

三毛猫ア馬鹿だぞ  
髯（ひげ）に  
火がはねた

哀愁に浸った作品が多い中であって、雨情には珍しくからりと陽気な詩だった。ページの余白に、下手くそな子猫の絵が鉛筆で描いてある。

「小学校のときの図工の成績はいつも

出した。祖父さんが使っていた五つ玉のゴツい算盤だ。

『十五夜お月さん』が三万五千円、小川未明の『赤い船』が五万円、押川春浪の『海底軍艦』はちよつと傷みがあるので三万円、酒井朝彦の『木馬のゆめ』が二万三千元……

算盤の珠を弾いた。

「合計して十四万三千元になります」

喜美子さんの顔をうかがうと、厳しい顔で睨んでいる。

「色をつけて十五万円！」

喜美子さんが破顔した。

「貴重な本を、ありがとうございまして」

本を入れた段ボール箱を抱えて、

玄関先で頭を下げた。喜美子さんがニコニコ笑いながら、本居長世の作曲した十五夜お月さんのメロディを口ずさんでいる。喜美子さんの実家は造り酒屋で裕福な家だったが、父親の放蕩で没落、満州に渡って辛酸を舐めたという。

喜美子さんと一緒に暮らしている一人息子の和彦さんが、傘を差し掛けて車の所までついて来てくれる。「ありがとうございました」

わたしは小さく頷いて、手渡された封筒をウエストポーチにしまった。一万円上乗せされて、十六万円入っているはずだった。謝礼はいいですからと言っているのだが、律義な性格なのだろう。



「名著複製 日本児童文学館」（ほるぷ出版）

段ボールに入っている本は、全部で一万円もあれば手に入る本だった。本物の稀覯本であれば十五万円という買値は決して高くはないが、すべて複製版なのである。出版された装丁を忠実に復元している。見分けるには、不自然なほどのきれいさと、奥付の下に記された「名著複製」という小さな文字だけだ。

和彦さんは、認知症の症状の出た喜美子さんを、単身赴任で帰省して介護している。本がなくなつたと騒ぐ喜美子さんのことを相談されて、複製版で揃えることを提案した。

喜美子さんはその本を、息子さんの学費のために売りたいと言いだした。大学の夜間部で苦学させたことを未だに後悔しているのだろう。和彦さんの方にも、田舎で独りで暮らす母親を放置していたという負い目がある。

買取は今回で三回目だ。喜美子さんがまた本がないと騒ぎだすまで、店で預かっておくことになる。

車を始動して、ワイパーを動かさせた。梅雨はまだ、終わりそうにもない。バックミラーの和彦さんの身体が小さくなって、深々と頭を下げた。

## まつの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL：090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 15,000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

### 「放浪の天才数学者エルデシュ」

ポール・ホフマン 著 草思社

知人の家を突然、訪問するや、身の回り品を詰めたスーツケース一つで転がり込む。夜中だろうと電話をかけて、数学の話をする。彼の世話に家族が疲弊するとまた次の訪問先に。

ハンガリーでユダヤ人として生れたエルデシュは、歴史の波に翻弄されて、定住地も家庭も財産も持たずに、知人の数学者を訪ねて25カ国以上を飛び回った。晩年には薬物の力を借りて、一日に19時間も



数学の問題を解くという生活も。この天才数学者は奇人だが、みんなから愛されていた。「ボス(女性)」「奴隷(男性)」「捕獲された(結婚した)」「雑音(音楽)」等々、エルデシュ語と呼ばれた語彙も楽しい。

### 「シュリーマン旅行記 清国・日本」

ハインリッヒ・シュリーマン 著 講談社学術文庫

トロイア遺跡の発掘で知られるシュリーマンの中国、日本の見聞記。ドイツの貧しい生まれだが、類まれなる語学力と商才でロシアの地で巨万の富を築き、1865年に世界漫遊の旅に出る。本書はフランス語で出版された紀行文から、シナと日本国の部分を抜粋したもの。

当時の日本は江戸時代で尊王攘夷の嵐が吹き荒れ、外国人の江戸城下への出入りは厳しく制限されていた。外交官や軍人ではないシュリーマンが、執拗にツテを求めて江戸入りを実現する。高度な文明と封建体制による抑圧――、旺盛な探求心で見聞した幕末の江戸を正確に記録している。賄賂が横行するシナに比べて、日本人の清廉さが誇らしく思えた。



### 「失踪日記」

吾妻ひでお 著 イースト・プレス

売れっ子の漫画家だったが、スランプに陥り酒浸りの毎日に。鬱症状が悪化して、山中で自殺しようとするが失敗して、そのまま身一つでホームレス生活に突入。こうして書くと悲惨だが、ギャグ漫画家らしく、ユーモアでくるんで読者を楽しませてくれる。すべて実体験と謳ってあるだけに内容はリアル、でもクスリと笑える漫画なのだ。



二度の失踪とアルコール依存症による精神病院への強制入院の体験が描かれている。失踪時の方が酒に不自由しているので、漫画を描いているときより体調が良かったという。この本で、日本の主要な漫画賞を総なめ、漫画家はタダでは転ばない……、いや失踪しない。

## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣(店内専用通貨)であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

## どらくる俳壇&歌壇

梅雨の蝶生きているのか触れて見よ

近藤 昌平

廃坑の修復百年若葉山

富久光

梅雨入りや施設の窓に明るき灯

片岡 正人

断崖にローカル線がありて夏至

隆愚

すいば齧る可愛い顔のいぢめっ子

大槇 三代子

戻り梅雨嘆息すれば流される

赤川 冬人

あお空にブルーインパルスは輝きて

松岡 初枝

感謝の飛行医療者の上に

## 投稿&寄稿

### 「寄生虫博士」

赤川 仁洋

コロナ騒乱にうんざりしてテレビを断捨離したが、ラジオを点けても話題はコロナ禍のことばかり。テレビに毒されていたのか、静寂に浸ると耳が寂しい。仕方がないのでNHKラジオの第二放送を聞いていた

ら、これがけっこうおもしろい。外国語講座が多いのは閉口だが、古典文学の話や専門家による講演会の内容は新鮮で、いつの間にか聞き入ってしまう。

日曜日早朝の番組で「こころをよ

※参加を歓迎します。

む」がお奨め。四月からは、東京医科歯科大学名誉教授、藤田紘一郎さんの「腸内細菌のチカラ」が放送されている。人間の身体には多くの細菌が共生していて、その数は腸内細菌だけで百兆個だと言われている。人間本体の細胞が約37兆個だから、人間という存在そのものが細菌を含めた微生物との共生体であると言える。この多様な腸内細菌が、体内で必要なビタミンや脳内伝達物質、免疫物質の70パーセントを産生している、らしい。

「サトミ、ヒロミ、キヨミ、ナオミ、カツミ、ホマレ」、藤田教授と同棲していた子(?)たちの名前である。この話は藤田教授の講演での持ちネタのようで、教授が自分の腸内で飼っていたサナダムシの名前。サナダムシは雌雄同体、男女どちらでも通用する名前をつけていたのだそうだ。

サナダムシの寿命は二年半ぐらい。六代にわたって十五年間、藤田教授は自分の腸内にサナダムシを飼い続けた。その目的は寄生虫によるアレルギー抑制効果を実験するため。

かつての日本人の腸内には、寄生虫がいるのが当たり前だった。それ

が駆除されるようになってから、花粉症などのアレルギー症状に悩む人が多くなった。サナダムシは宿主の身体を守るために、アレルギーを抑制する物質を産生しているのではないか。

花粉症が治るのならサナダムシを飼ってみよう……、これもまた相当な勇気が必要か。寄生虫に頼らなくても、腸内細菌が健在であれば、必要な物質を産生してくれる。その腸内細菌の食料となるのが食物繊維、野菜はやっぱり重要なのだと再認識した。



## 短期連載寄稿 林原正好（鳥取県倉吉市）

### 「毛利家臣の赤川氏について」（その1）

私の母の実家が赤川姓であることから、赤川氏に興味を持って調べるとき、毛利氏の家臣に赤川氏がいることがわかった。

この毛利家臣の赤川氏について調査を進めると、『芸藩通志』には、「青樹山 峰村にあり、赤川十郎左衛門元秀、所居」とある。青樹山とは青掛山とも呼ばれており、そこに山城の跡がある。『日本城郭体系<sup>13</sup>』（新人物往来社）によると、その山城は青掛山城、別名青影城、赤川城とも呼ばれ、赤川氏の拠った城であるとされている。この青樹山は、現在の庄原市峰田町にあり、この庄原の地には赤川氏の足跡があるようで、親

しみが感じられる。

#### 1 赤川氏伝来の古文書

毛利家臣の赤川氏については、『萩藩閥閥録』の中に赤川氏伝来の古文書や系譜が載っている。この『萩藩閥閥録』は、萩藩が江戸時代享保年間（1720年～1726年）に藩内諸家から伝来の古文書や系譜を提出させて編集したもので、鎌倉・南北朝時代から近代初期の江戸時代元禄前後までの多くの古文書が含まれている。赤川氏の系譜については、桓武天皇11代の土肥実平に始まり小早川姓となり更に赤川姓となる流れが掲載してある。

また、『萩藩閥閥録』に載っている赤川氏伝来の古文書で一番古いものは、室町時代の明応10（1501）年に毛利弘元が赤川房信に宛てた文書である。『萩藩閥閥録』の赤川氏系譜において「房信」の前の当主である「親定」の注記として「自是以前之御証文往古焼失仕不分明」とあり、

「親定」以前の証文は焼失によりわからないということであり、赤川氏に残されている一番古い文書は「房信」のものであることを裏付けている。

#### 2 赤川氏のことを記録されている文書

それでは、赤川氏に残されている古文書以外に、赤川氏のことを記録されている文書（以下、「赤川記録文書」と記載）で明応10（1501）年以前のものがなくどうかを見てみたい。

(1) 享徳3（1454）年の赤川記録文書

『古城址は語るー伝説と史ー』（城殿子著）に、享徳3（1454）年の赤川記録文書が紹介しており、私の知るかぎりこの文書が赤川氏に関する確かな記録の一番古いものだと思われる。赤川氏のことについて書いてある本が少ない中、この本には、地元の青影城城主であったと思われる赤川氏についてその出自から安土桃山時代まで詳しく記述されており、その熱い思いが伝わってくる本である。この本の40頁に『大日本古文書家わけ8 毛利家文書』（以下、「毛利家文書」と記載）77号の文書が紹介

してある。

○毛利家文書77号

赤河房秀文書進上日記

「上候御文書日記」（端裏書）

普光院殿様御内書三通、是一枚宛別に有、御文書紙数以上十五枚次合候中に御安堵の御判二通 同 浄済讓状一通 熙元讓状一通、以上紙数十五枚次合候、普光院殿御判三通は別に候、何もうつし置 候て本書者上候き

赤河右京亮房秀（花押）

享徳三年十二月五日

この文書について、城殿子によると「この頃の赤川惣領は親定である。右京亮房秀は年代の上では、親定の弟であろうと思われるが、当時は名前が度々変えられているので、房秀の名前を系図に見ることは出来ない。」とある。

それでは、この文書進上日記とは、どういうものであるか。この日記の中に書かれている文書は普光院殿（将軍足利義教）の御内書（私文書）、御文書（公文書）、所領安堵状、毛利家相続の讓状など、毛利家の存続に関わる重要な文書である。



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

## 一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

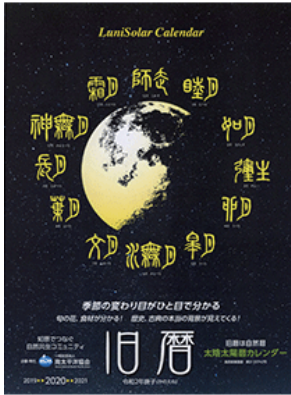


## 「旧暦カレンダー」 (販売価格：1,650円)

- ・日本の自然に根差した暦 (こよみ) です。
- ・太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- ・新暦 (太陽暦) も併記しているので便利です。
- ・季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- ・自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和2年度版、好評販売中！

※今年のはうるう月のある年です。



## 《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
  - 教室&講座案内
  - イベント情報
  - あなたの大切な本の紹介
  - ボランティア・ライター (現地記者) 募集！
- ※応募先はどら書房・赤川まで。  
掲載は無料です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## ◇どら書房郷土資料本コーナー◇

郷土史関係の本や地元で出版された本、  
地元の方の作品集 (短歌俳句小説等)、地  
元に関係する本を揃えています。非売品  
で閲覧&貸出 (無料) しています。寄贈も  
歓迎します。

## どら書房無人野菜販売コーナー

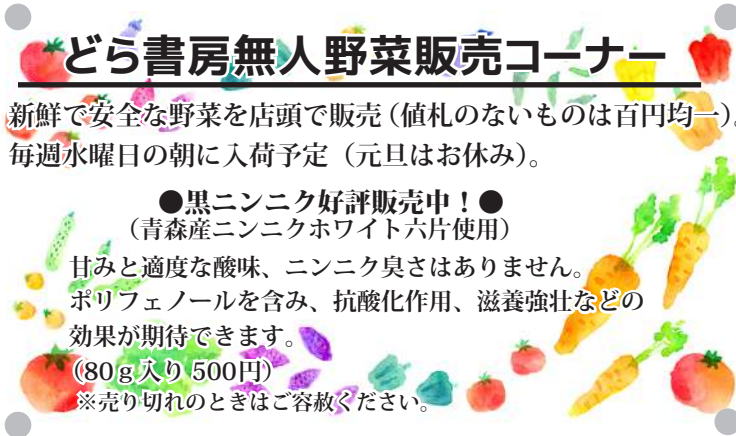
新鮮で安全な野菜を店頭で販売 (値札のないものは百円均一)。  
毎週水曜日の朝に入荷予定 (元旦はお休み)。

### ●黒ニンニク好評販売中!● (青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。  
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの  
効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。



## 編集後記

◇「ふるさと」の巡礼地  
を訪ねて」は今回で終  
了です。この企画で、  
いろいろな場所を訪  
することができまし  
た。それぞれの霊場に、  
歴史や物語があること  
を知りました。ふるさ  
とがより身近になっ  
たような気がしま  
す。

◇「つれづれ歌談」、いよいよ  
連載開始です。「短期連載寄  
稿」、赤川姓の一員として、  
興味深く読んでいます。わた  
しの祖父は、庄原の赤川村で  
はなく、三次の田幸の出身で  
すが。  
◇コロナ禍がなかなか収束し  
てくれません。東京が「欲望  
の街」でもあるからでしょう  
ね。不安の中でプロ野球開幕、  
カープの好成績が癒しになっ  
ています。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052 (赤川)

e-mail: touzin@sannet.ne.jp

年間購読料：2,000円 (郵送料別)

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第 233 回

# ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和 2 年 7 月 9 日 (木) 9:00~13:00

## 庄原九日市とは？

天正年間（440 年前）に物々交換で始まった市（いち）

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し 2001 年に復活

## TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」  
休 館

★楽笑座で「まかない食堂」中 止

★楽笑座で「うた声喫茶」中 止

★どら書房 →休憩所あります！！

月曜日と火曜日はお休みです。

但し、九日市の日は営業します。

★きくや →総菜とお寿司の店頭サービス！！

★風龍 →九日市スペシャルで餃子 200 円！

## 出店配置図



出店申込みは、【毎月 20 日締切】 コンパネ 1 枚スペース 1,000 円～ 九日市愛好会事務局  
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

